

## 安全データシート

## イソオクタノール

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名 : イソオクタノール  
CB番号 : CB9506080  
CAS : 26952-21-6  
同義語 : イソオクタノール

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 溶剤、プラスチックおよび非イオン活性剤の中間体  
推奨されない用途 : なし

## 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 010-86108875

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用 GHS改訂4版を使用

## 物理化学的危険性

引火性液体 区分4

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分4

皮膚腐食性/刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(上気道)

## 環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 分類実施中

水生環境有害性(長期間) 分類実施中

オゾン層への有害性 分類実施中

## GHSラベル要素

## 絵表示

GHS07

## 注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

可燃性液体

飲み込むと有害

皮膚刺激

眼刺激 強い眼刺激

臓器の障害のおそれ(中枢神経系)

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(上気道)

## 注意書き

### 安全対策

炎や高温のものから遠ざけること。-禁煙。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱後は手などをよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

### 応急措置

火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。 火災の場合:消火するために...を使用すること。

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合:多量の水/...で洗うこと。

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合:口をすすぐこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

### 保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

### 廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 他の危険有害性

---

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: イソオクタノール
別名	: イソオクチルアルコール(異性体混合物)、6-メチル-1-ヘプタノール、Isooctyl alcohol (mixed isomers)、6-Methyl-1-heptanol、methylheptyl alcohol (mixed isomers)
濃度又は濃度範囲	: 100%
分子式(分子量)	: C <sub>8</sub> H <sub>18</sub> O(130.23)
CAS番号	: 26952-21-6
官報公示整理番号(化審法)	: (2)-217
官報公示整理番号(安衛法)	: (2)-217
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	: データなし。

## 4. 応急措置

### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。安静。人工呼吸が必要なことがある。 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

### 皮膚に付着した場合

多量の水と石けんで洗うこと。 皮膚に付着した場合:多量の水/...で洗うこと。

特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。コップ1、2杯の水を飲ませる。 口をすすぐこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入:咳、めまい、感覚鈍麻、頭痛、吐き気、咽頭痛。

皮膚:皮膚の乾燥、発赤。

眼:発赤、痛み。

経口摂取:下痢、嘔吐。咳、めまい、感覚鈍麻、頭痛、吐き気、咽頭痛。

短期暴露の影響:眼、皮膚、気道を刺激する。中枢神経系に影響を与えることがある。

長期または反復暴露の影響:皮膚の脱脂を起こす。

### 応急措置をする者の保護

データなし。

## 医師に対する特別な注意事項

データなし。

---

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

### 使ってはならない消火剤

棒状水

### 特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

82℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。

### 特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火するために粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂を使用すること。

### 消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

### 環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

個人用保護具:有機ガスおよび蒸気用フィルター付きマスク。 ・個人用保護具:有機ガスおよび蒸気用フィルター付きマスク。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

#### 安全取扱い注意事項

炎や高温のものから遠ざけること。-禁煙。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱後は手などをよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

個人用保護具:有機ガスおよび蒸気用フィルター付きマスク。

火気厳禁

82℃以上では、密閉系および換気。

20℃で気化したとき、空気は汚染されても有害濃度に達しないか、達してもきわめて遅い。

#### 接触回避

強酸化剤

#### 衛生対策

取扱い後は手などをよく洗うこと。

### 保管

#### 安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

火気厳禁

強酸化剤から離しておく。

#### 安全な容器包装材料

データなし。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

未設定

### 許容濃度

日本産衛学会(2012年度版)

未設定

## 許容濃度

### ACGIH(2012年版)

TWA:50ppm STEL: -

## 設備対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

## 保護具

### 呼吸用保護具

必要に応じて、適切な呼吸用保護具を着用すること。

個人用保護具:有機ガスおよび蒸気用フィルター付きマスク。

### 手の保護具

保護手袋を着用すること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

### 眼の保護具

保護眼鏡、保護面を着用すること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

### 皮膚及び身体の保護具

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

個人用保護具:有機ガスおよび蒸気用フィルター付きマスク。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状	液体 (HSDB (2009))
色	無色透明 (HSDB (2009))
臭い	弱い (HSDB (2009))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	データなし。
-106℃(HSDB (2009))	
188℃(HSDB (2009))	
82℃(OC)(HSDB (2009))	
データなし。	
データなし。	
0.9~5.7 (概算値)vol%(空气中) (ICSC (1999))	
0.4 hPa(20℃)(Verschueren (4th, 2001))	
(air = 1): 4.5 (ICSC (1999))	
0.832(Gangolli (2nd, 1999))	
水:640 mg/L at 25 deg C(HSDB (2009))	
エタノール、エーテルに溶解する。(HSDB (2009))	
log Kow = 2.73 (est) (HSDB (2009))	
277℃(ICSC (1999))	

---

データなし。

---

10.6mPa・s (15℃)(HSDB (2009))

---

#### 融点・凝固点

-106℃(HSDB (2009))

#### 沸点、初留点及び沸騰範囲

188℃(HSDB (2009))

#### 引火点

82℃(OC)(HSDB (2009))

#### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

#### 燃焼性(固体、気体)

データなし。

#### 燃焼又は爆発範囲

0.9~5.7 (概算値)vol%(空气中) (ICSC (1999))

#### 蒸気圧

0.4 hPa(20℃)(Verschuieren (4th, 2001))

#### 蒸気密度

(air = 1): 4.5 (ICSC (1999))

#### 比重(相対密度)

0.832(Gangolli (2nd, 1999))

#### 溶解度

水:640 mg/L at 25 deg C(HSDB (2009))

エタノール、エーテルに溶解する。(HSDB (2009))

#### n-オクタノール/水分配係数

log Kow = 2.73 (est) (HSDB (2009))

#### 自然発火温度

277℃(ICSC (1999))

#### 分解温度

データなし。

#### 粘度(粘性率)

10.6mPa・s (15℃)(HSDB (2009))

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

強酸化剤と反応する。

### 化学的安定性

情報なし。

### 危険有害反応可能性

82℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。

### 避けるべき条件

情報なし。

### 混触危険物質

強酸化剤

### 危険有害な分解生成物

情報なし。

---

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

#### 経口

ラットのLD50値として1480 mg/kg(ACGIH (2001))および >2000 mg/kg(PATY (5th, 2001))の2件が報告され、それぞれ区分4またはJIS分類基準の区分外に該当するが、危険性が高い区分を採り区分4とした。GHS分類:区分4

#### 経皮

ラットのLD50値は >2600 mg/kg(ACGIH (2001))に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5または区分外に相当)とした。GHS分類:区分外

#### 吸入:ガス

GHSの定義における液体である。GHS分類:分類対象外

#### 吸入:蒸気

ラット、マウスまたはモルモットに200 ppm(飽和蒸気)を6時間ばく露により死亡がみられなかった(PATY (5th, 2001))ことから、LC0は200 ppm(4時間換算値:245 ppm (1.30 mg/L))と推定されるが、区分を特定できないので分類できない。GHS分類:分類できない

#### 吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

### 皮膚腐食性及び刺激性

ウサギを用いた試験において、4時間の半閉塞適用により中等度の刺激性(PATY (5th, 2001))、24時間の閉塞適用により中等度の刺激性と局所壊死(ACGIH (2001))が報告されている。また、試験物質原液を6~24時間の適用により紅斑と浮腫に加え、一部の例で皮内出血も見られたが、紅斑は2~3日で消失し、皮膚は乾燥し黄褐色となり、7~10日に硬化した後、皮革状の皮膚が剥離した(オランダ評価文書(2003))と報告されている。以上より、閉塞又は半閉塞適用により中等度の刺激性(moderate irritation)を示し、適用4~24時間で局所性の壊死を生じるが、回復性が認められたことから、区分2とした。GHS分類:区分2



## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの眼に適用したドレイズ試験において、持続性で広範な角膜混濁が認められ、重度の刺激性(**severely irritating**)と報告されている(**ACGIH (2001)**)、観察された刺激性スコアの最大値(**MMAS**または**AOI**に相当:最も重度の場合**110**)は1日目の**24**であり(**オランダ評価文書(2003)**)、1週間以内に回復している(**ACGIH (2001)**)ことから、区分**2B**とした。**GHS分類:区分2B**

## 呼吸器感作性

データなし。**GHS分類:分類できない**

## 皮膚感作性

ヒトでボランティアに未希釈の本物質を適用したパッチテストにより、**32人中13人**に一次刺激反応として紅斑が見られ、**2週間後の再試験**では全例に軽微な紅斑が見られ、**8人**が反応の増強を示した(**オランダ評価文書 (2003)**)、この結果から皮膚感作性について結論されていない。したがって「分類できない」とした。**GHS分類:分類できない**

## 生殖細胞変異原性

データなし。**GHS分類:分類できない**

## 発がん性

データなし。**GHS分類:分類できない**

## 生殖毒性

妊娠ラットの器官形成期に経口投与による発生毒性試験において、高用量で親動物に体重増加抑制と摂餌量減少が認められたが、胎児毒性および催奇形性は観察されていない(**PATTY (5th, 2001)**)。しかし、親動物の性機能および生殖能に対する影響に関してはデータがなく不明のため「分類できない」とした。**GHS分類:分類できない**

---

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

#### 水生環境有害性(急性)

分類実施中

#### 水生環境有害性(長期間)

分類実施中

#### オゾン層への有害性

分類実施中

---

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 国連番号

特定できない。

**MARPOL73/78**附属書Ⅱ及び**IBC**コードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(Y類物質)

### 国内規制

#### 海上規制情報

特定できない。

#### 航空規制情報

特定できない。

#### 陸上規制情報

消防法の規定に従う。

### 特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

---

## 15. 適用法令

### 消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体

### 海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

## 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法(化審法)<https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)<https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。